

山の中の船

これらの御船と呼ばれる山車は、安曇野全域の祭りに登場します。これらの船形の山車は航海者としての安曇族の起源と関係があるのではないかと考えたいと思いますが、この船をテーマにした儀式と古代の船乗りたちを具体的に関連付ける学術的な記録は見つかっていません。それでも、祭りが海での生活を模倣して神を喜ばせようとする試みに由来していると想像するのはわくわくします。

その起源は謎に包まれているものの、古くは 1689 年の史料に「御船」と御船を作るために使われた木材について記載があります。今日でも、この山車は伝統的な素材と繊細な技術を用いて建造されています。枠組みは大きな丸太の土台の上に木の枝を組んで作られ、鮮やかな色の幕布で覆われています。それぞれの御船の甲板には舞台が設置されており、人気のある歴史や伝説の場面が素晴らしく細密な模型が乗せられています。近くの資料館に展示されている御船の上では、入念に装甲した戦士が剣を高く掲げて突撃しています。馬は恐怖で後ずさり、戦いが激化するにつれて波が岩を打ちます。別の御船では、森に囲まれたお姫様や視覚的な小道具により幻想的な場面が創り出されています。

山車は大きな木製の車輪の上に取り付けられます。舵取りをする仕組みはないので、この巨大で重い建造物が道の角を曲がる時は、押したり引いたりして山車の向きを変えます。